

○ 水道ができるまで、各集落や各学校等における飲料水は、次のような状態であった。

表1 各集落の飲用水の状態

和泊	字名			
奥川 ウコ	石川 イシガハ	泉名		
水質・水量・運び方などの状況		<p>石川は旧棧橋の南側にある水質・水量とも和泊字唯一の良質泉で、上流の清水は飲料水・雑用水用として各家庭に運び、下流の方は洗濯・水遊び・牛の水浴び等にも使用したが、満潮期や台風前後の高潮のときは海面下没して使用できなかった。</p> <p>高千穂神社の東南麓にある。和字のヒイジヨの水が伏流となって地下を流れ、再湧出した泉。付近の民家や学校が利用していた。</p>		
六九	数	井	戸	
水質・汲み上げ状況等		<p>石川は満潮のとき使用できないばかりでなく、台風の前後は高波のため数日間も使用できなかったため、それに備えて井戸を掘った。あまり深くはないが、水質に恵まれず、中には塩辛い水の出る井戸も相当あった。</p>		
四五	タンク	飲料用水		

和名	手々知名	ユヌビンジョウウ	ユヌビンジョウウ
ショウジゴ ヒージョ ガラゾ	ウシユントウ ヌチゴ フクザトウ ウイナカスク ウシユバル アーボ家のホ	集落の西方にある泉で、水質・水量とも良好 集落の東部にある暗川 集落の中程にある暗川 } 二十メートルほどの断がい絶壁を下りて飲料水を汲み、それを運び上げた。	水質・水量ともに良好である。 深さ十五尋〜二十尋程度
一七	四二	昔は石川の水を飲料水として使用したのではないかと思われるが、距離が遠く、水運びに苦労したらしい。古くから井戸(五〜六尋程度の浅い井戸)を掘って使用した。 集落の中ほどにあり、水質・水量ともに良好 集落の中ほどにあり、水質・水量ともに普通 集落の西部にあり、水質・水量ともに普通 集落の北部にあり、水質・水量ともに普通 集落の北部にあり、水質・水量ともに普通	深さ五〜六尋程度 ウシユントウヌチゴなどのように水質の良い井戸もあったが、中には塩辛い水の出る井戸もあった。 水量は良好であった。
一八	二	○水質は良好であるが、水量が乏しく、渇水期には著しく水量が減って困った。 ○渇水期の水汲み ①先着順に水汲みの順番を決める。②自分の順番がきたときに、小おけとひしゃくを持って深さ一メートルほどの井底に下りる。③井底の凹地に水がある程度たまったとき、静かにひしゃくで汲んで小おけに入れる。④大おけはあらかじめヌケ石の上に載せておき、次々小おけの水を移し入れる。⑤水を大おけの九分どおり入れてから頭上に載せて自宅に運ぶ。 ○夜中または夜明け前など、水を汲む人の途絶える時刻を見計らって、ちょうちんやカンテラ、または船ランプなどの灯火を持って水汲みに行った。 ○曲がりくねった田んぼの畦道 <small>あぜ</small> を通って、遠く奥川 <small>ウコ</small> や手々知名の井戸まで水もらいに行つたこともある。 ○水源かん養のため雑木林を育てる必要があるとの結論に達し、在京の菅村芳竹・芳弘兄弟(菅村修己氏祖父の弟)はじめ字民一同が浄財を拠出して、上流地域を広く買収し、雑木を植えて水源をかん養したが、予期したほどの効果は表れなかった。	○一組共同井戸―第一小組合員一同が共同で井戸を掘り大正十二年に完成したが、塩辛い水が出た。深さも二十一尋あり、汲み上げが困難で、あまり用されなかった。
	四三	暗川は集落の中心部にあり飲料水の主体であったが、渇水期には湧出量が減水するので、先着順に水汲みの順番を決め、少しずつわき出る水をひしゃくで丁寧に汲み取ったものである。渇水のひどいときは、集落北部の人たちはアンニヤゴに、集落南部の人たちは遠く手々知名のアーボ家のホーまで、水もらいに行ったものである。	○二組共同井戸―第二小組合員一同が共同で井戸を掘り大正十二年に完成した。水質も良かったが、木製の井戸枠が腐朽したため崩壊し、その利用は短期間で終わった。

喜美留	暗川	二五	三〇

出花	アンニヤゴ ウニゴ	集落の北東方約四百メートルにあり、二か所に湧出していた。水質良好。普段は付近の民家数軒が利用するだけであったが、渇水期には集落北部の人たちが水汲みに殺到したものである。		
伊延	ホー チンチョ	和泊行き道と出花行き道の分岐点の西側凹地にある。浅くに湧出し水質も良好であったが、渇水期に水量が減少する欠陥があったので、付近の人たちが協力して共同井戸（通商チンチョ）を掘った。 散在集落なので遠距離の水運びに苦労した。	五	水質・水量ともに普通であったが、深さが三十尋近くもあり汲み上げに長時間を要したので、先着順に順番を決めて汲んでいた。
畦布	ワンジョ	北海岸にわき出た泉。水質良好、水量も十分で沖永良部を代表する有名な泉であるが、集落から四〜五百メートルの急坂を下って水を汲み、それを各家庭まで運び上げるのは大変な苦労であった。	一	深さ三十尋近くもあり、水を汲み上げるのに大変苦労した。
			六	共同井戸―水質・水量ともに良好であった。 個人井戸―深さ十尋以内、水量の良い井戸もあったが、塩辛い水の出る井戸もあった。
			一一	一七

西原	シャゴ テীগナシ ゴ	下川の意。集落の西部にあつて水質は良好であった。渇水期に水量が減少するので、先着順に水汲みの順番を決めて静かにくみ取ったものである。 集落の西方、出花字との中間にあり、出花字東部の人たちも水汲みにきていた。平常は水質・水量とも良好であるが、渇水期に減水して困ったこともある。	一〇	泉が集落の西部に偏在していたので、名越西明氏が東の方に井戸を寄付した。 井戸は皆深さ十三〜四尋、水質・水量ともに良好であった。	一七
国頭	クラゴ 暗川	○ヒジャゴ・ヒヤンジュは、水質は普通であったが渇水期に水量が著しく減少して困った。 ○ツツヨ・ウシユウミ・タバ・アンザは海岸線に湧出する泉で、高さ十〜二十メートルの危険な断がい絶壁を下りて飲料水を汲み上げた。 ○散在する四百戸近くの大集落に水源の数が少なく、各民家からの距離が遠いため、水運びの苦労は大変なものであった。	四二	集落密集地の井戸は深さが二十尋近くもあり、硬い石灰岩盤などもあって掘るのに大変苦労した。 共同井戸が多い。 学校付近は高いので地下水脈が深いだろうと推測し、井戸は最初からあきらめてタンクを造つてあつた。後井戸を掘つたら八〜十尋で良い水が出た。 ヤジマタ井戸ができてから、その飲料水を頼りにしてピシの集落ができた。	一四六

上内城	内城	古里	皆川
ウイバルゴ ー	シマンゴ ー 世の主ゴ ー テラシキ ゴ ー ヒヤダゴ ー ー イジンジ ョウゴ	シージョ ゴ ー ナーメゴ ー	バシヤド ー ホ ー
集落の北部(内城小学校の北方約百メートル)にある。水質・水量ともに良好な泉である。	内城字は、和泊町の水源である越山山麓にあることと、土壌が花崗岩の風化したマサ土(ハグ土)で水もちが良いため、集落内至る所に良質で水量豊富な泉がある。	集落の北方約三百メートルにある。水質・水量ともに集落の北方約五百メートルにある)良好。	集落の北方、曲がりくねった道を約五〜六百メートル行った所にある。水質は良かったが水量が少なく、住民の需要を満たすことができなかった。 石橋川の水を浄化して飲料水として使用した。すなわち、美野入間氏宅前に砂・砂利・木炭等を入れた浄水装置を設置し、上流地帯で人畜の水浴・洗濯などの生活用水として使用された水をそれに導入浄化して、全住民の飲料水にした。
一七	四三	七	一
深さ五尋〜六尋。水質・水量ともに良好。	二〜三メートルも掘れば良質の飲料水が多量に得られるので、ほとんど全部の家庭に泉や井戸がある。	深さ十尋〜十五尋。水質・水量ともに良好。	井戸の深さ二十尋。少し塩分を含み、飲料水に適さなかった。
六	九	二六	一七

大城	玉城	根折
ホーニゴ ー マーシシ ンゴ ー アサト タビラゴ ー ヒヤダゴ ー ハナゴ ー	ウシユゴ ー イムテイ ゴ ー インガマ イヨウ	ニヤーゴ ー ウタゴ ー
集落の東部に ある 集落の南部に ある 集落の中部に ある 集落の南西部 にある 集落の北部に ある 集落の西部に ある	集落の西部にあり、水質・水量ともに普通。 集落の東部にある暗川。水質・水量ともに良好。急坂三〜四十メートル下った所の水源がある。付近の農作業者や、海に行き来する人が多く利用した。	集落の西方約七百メートル、越山の北麓にある。長い坂道を上り下りしての水運びは大変な苦勞であった。水かれのひどいときは、遠く瀬名字との中間にあるアミゴーの上流まで水汲みに行ったものである。 集落の南約七〜八百メートルのウタにある。急坂を上り下りしての遠距離の水運びは大変な苦勞であった。
四三	六二	二
井戸の深さ五尋〜十尋、水質・水量ともに良好であった。	井戸の深さは十尋〜十五尋、水質・水量ともに良好であった。	個人井戸―深さ二十尋余り、水質は良かったが汲み上げるのに苦勞した。 二組共同井戸―深いため汲み上げが困難で、あまり利用されなかった。
一	四八	一七

後蘭	メーダゴ メークブゴ タンクシヤ ゴ	集落の北部にあり、水質・水量ともに良好。 集落の東部にあり、水質・水量ともに良好。 集落の南部にあり、水質・水量ともに良好。	三三	井戸の深さ四尋〜七尋 数メートル掘れば良質の飲料水が得られるので、ほとんど全家庭にある。	二
谷山	アシキブ ナクチンダ ニジゴ シマイビ クラゴ	集落の南東にある 集落の西方にある 集落の中部にある 集落の東方にある 集落の南西にある	二七	集落内には泉の数が多く、水質・水量とも良好であったが、曲がりくねった急坂を上り下りしての水運びは大変苦勞であった。	八
仁志	キのホウ	集落の西部にあり、簡単にひしゃくで汲める浅い泉。 水質は良好であるが濁水期には湧出量が減少し先着順に順番を決めて水を汲んだこともあり、ひどいときは知名町新城まで水もらいに行つたこともある。泉までの距離一キロメートル以上の家庭もあり、水運びの苦勞は大変なものであった。	一三	井戸の深さ十尋〜十七尋 散在集落なので各個人別に井戸を掘らねばならず工費のねん出に苦勞した。	一三二
永嶺	アガリゴ マクシヤゴ クラゴ 暗川	集落の東部にあり、水質・水量ともに良好。 集落の中部にあり、水質・水量ともに良好。 集落の北方にあり、水質・水量ともに良好。	四二	井戸の深さ五尋〜六尋以内 水質・水量ともに良好。	七

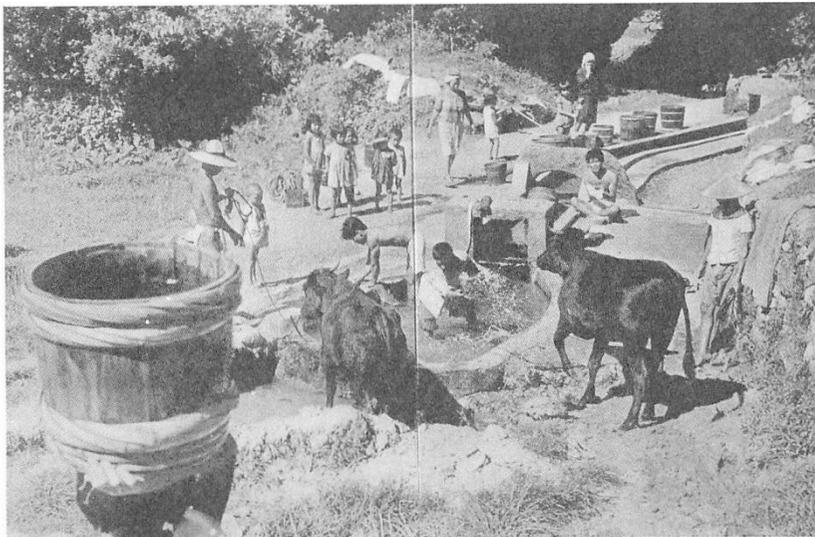
表2 各学校の飲用水の状態

合 計	瀬 名				
	アガリテ イ イヤテゴ メーヤマゴ 竜太郎ゴ	集落の東部にあり 集落の西部にある 集落の南方にあり、水質・水量ともに良好。 集落から遠く南方にあり、付近の民家が利用した。	九	井戸の深さ十四尋〜二十尋 井戸が深いのでくみ上げに苦勞した。 水質・水量ともに普通。	六
		水質は良好であるが濁水期には水量が減少し、先着順に順番を決めてくんだこともある。			
五二八					五四〇

学 校 名	飲 料 水 の 状 況
和泊尋常高等小学校	<p>○校地(現和泊町役場敷地)の北東部、最も石川<small>イシガハ</small>に近い場所に水飲み場を設置してあった。用務員が石川の水を運んで広口の大きなかめに入れていたが、休み時間になると千名を超す児童たちが先を争って殺到し、たちまちかめいっぱいの水を空っぽにした。遅れてきて水の飲めなかつた児童たちは、先を争って石川まで駆け下つて水を飲んだものである。</p> <p>○限りある用務員の水運び能力では、とても児童たちの欲求を満たすことができなかつたので、学校は児童に対して「飲料水持参」を奨励した。児童たちは自宅で、サイダー瓶やビール瓶などに飲料水を詰め、それを持参して登校した。</p> <p>○大正五年ごろ、現在町民体育館のステージのある付近に井戸を掘った。深さ七〜八尋で地下水脈に達した。少し塩辛かったが、それを飲んでいた。井戸から少し離れた北側に水飲み場を設置し、大きな広口の赤かめが二つと竹ひしゃくが数本備えられてた。授業時間中に二人の用務員が水を汲</p>

	<p>みあげ、それをバケツで運んで、かめいっぱい満たしておく。休みの鐘と同時に千三百名の児童が駆けつけて、先を争って水を飲む。たちまちかめの水がなくなる。水の飲めなかった児童たちは井戸に殺到し、自分たちで水を汲み上げて飲む。わら縄の端に結ばれた板釣瓶<small>（いっぺん）</small>に汲まれた水の中には、塵埃<small>（じんあい）</small>がいっぱい陽光に照らし出されていた。多くの児童たちは塩辛いうえに汚れたこの水を、先を争って飲んだものである。</p> <p>○先生方の飲料水とお茶用の水だけは、二人の用務員が干潮時を見計らって石川<small>（イシガハ）</small>の水を運び、用務員室内の小さな水かめに保管していた。</p>
<p>国頭尋常高等小学校</p>	<p>○約四百名の児童の飲料水を、用務員は約三百メートル離れた暗川<small>（クラゴ）</small>から汲んで運んでいた。集落から学校に登る急坂を運び上げるのは大変な苦勞であった。</p> <p>○学校は児童に対して「飲料水持参」を奨励したので、児童たちは自宅でサイダー瓶やビール瓶などに飲料水を詰め、それを持参して登校した。</p> <p>○国頭字内の井戸があまりにも深いので、高所に位置している学校としては、井戸を掘ることは最初からあきらめていた。</p> <p>○シッキイで貯水槽をつくり、瓦屋根<small>（かわら）</small>の水を竹製の雨どいに集め、それを導入る過して飲料水として使用した。</p> <p>○後、校地の北東隅に地面を掘り下げて縦二メートル・横三メートル・深さ一・五メートルほどの貯水槽をつくり、瓦屋根の水をタン製<small>（タン）</small>の雨どいで導入、それをろ過して飲料水にした。</p> <p>○学校の周囲に防風用として植えてあるガジマルの木<small>（ガジマル）</small>の根が水槽のコンクリートにさし込み、水もちが悪くなったので、昭和十八年九月、思い切ってその西側と用務員室の間に井戸を掘った。案ずるより生むはやすく、わずか八尋で地下水脈の達し十一月に完成した。</p>

<p>大城尋常高等小学校</p>	<p>○昭和二十三年新制中学校発足後、校地の南側に井戸を掘り、案外浅くに良水を掘りあてた。これによって国頭は、北部の低い所ほど地下水脈が深く、南部の高い所にある学校付近ほど地下水脈の浅いことが実証された。</p> <p>○学校の西方約百メートルにある「学校のホー」から水を汲み上げていた。急坂で、しかも曲がりくねった田んぼ道を通って水を汲み上げるのは大変な苦勞であった。</p> <p>○水汲みの仕事は用務員の担当であったが、限りある用務員の労力では四百名を超す児童たちの需要を満たすことができず、高等科児童の水汲み当番を置いて飲料水を運び上げさせていた。またいろいろな行事などで人が多く集まる時などは水夫<small>（ミヅウ）</small>を雇って水を汲み、運び上げさせたものである。</p> <p>○大正九年十一月、本校舎の玄関<small>（エシ）</small>わきに井戸を掘った。</p> <p>○昭和八年、校地の北西部、用務員のわきに新しい井戸を掘り、タンクを設置した。</p>
<p>内城尋常高等小学校</p>	<p>○学校の北方約百メートルほどにあるウイバルゴ<small>（ウイバルゴ）</small>の水を、用務員（一名二名）が運び、大きな水かめに入れて児童の飲料水に供した。</p> <p>○校地内二〜三か所に井戸を試掘したが、花崗岩の風化したマサ土であるため土質が軟らかく、すぐ崩壊して地下水脈まで掘り下げる事ができなかった。</p> <p>○昭和七年ごろ武宮校長の時代に、コンクリート製の井戸枠をつくり、その井戸枠を次々入れて土砂の崩壊を防ぎながら掘り下げて行ったが、下の方から崩れやすく、深く掘り下げる事ができなかった。井戸が浅く水量が少ないため、ちよつとしたことで濁りやすかった。</p> <p>○昭和二十七年宗吉校長時代に西門近くに井戸を掘った。水の湧出量が少なかったためさらに掘り下げようとしたが、硬い岩盤があつて掘り下げる事ができなかった。</p> <p>○昭和三十四年原校長時代に、ウイバルゴ<small>（ウイバルゴ）</small>にダイナールポンプを設置し、水圧送水によって学校の飲</p>



16 畦布のワンジヨ (昭31年 芳賀日出男氏撮影) 泉は上流から順に、飲料水くみ場・男女別の水浴び場・牛馬の水浴び場となっていた。



18 田んぼで雨後の洗濯 (国頭)
(昭31年 芳賀日出男氏撮影)



17 ワンジヨ (畦布) 女専用の水浴び・洗い場
(昭31年 芳賀日出男氏撮影)

城丘中学校	<p>○昭和二十三年四月開校したが、校地の中央裏に旧来の泉があった。水質・水量ともに良好であったので、そのまま三百名近くの生徒の飲料に供した。</p>
和泊中学校	<p>○昭和三十一年、和泊中学校の校舎建築工事と同時に、校地に北側直室のそばに井戸を掘った。 ○家庭科教室の屋根に貯水槽をつくり、電気動力揚水ポンプで井戸水をあげた。 ○各教室の前に水飲み場をつくってガランを装備し、貯水槽の水を引いて飲料に供した。</p>
和泊第一中学校 和泊小学校	<p>○昭和二十三年四月以降 青年学校の敷地は和泊町立第一中学校(生徒約四百名)となり、昭和三十四年六月以降は和泊小学校(児童数約九百名)となったが、飲料水は青年学校時代から引き続き、井戸と奥川の水を併用した。</p>
和泊村立青年学校	<p>料水用の水タンクに導入し、全校児童の飲料水として使用した。</p> <p>○青年学校は当初、和泊尋常高等小学校北校舎を使用して授業を開始した。 ○昭和十一年、距離的に和泊村の中心にあたる高千穂神社の南東に、和泊村立青年学校を設置した。 ○学校設置と同時に、校地の北側中央に井戸を掘った。深さ七尋、水質・水量ともに良好であった。 ○生徒数 約七百名 が多かったため、井戸の水と奥川の水を併用していた。</p>

二 雑用水

沖永良部の島には昔から、チャワカシミジ（茶沸かし水）という言葉と、チケミジ（使い水・雑用水）という言葉があった。それは昔から飲料水が乏しかったので、その珍しい飲料水の使用は、飲み水とお茶用だけにとどめ、唐芋を煮たり、食器や鍋・釜を洗ったり、ふるを沸かしたり、洗濯をしたり、ふき掃除をしたりする水は、水質のあまり良くない雑用水で辛抱するという、生活の実際から生まれた言葉である。

中には内城字のように、飲料水が豊富で、生活用水のすべてを良質の飲料水で賄える集落もあったが、大部分の集落では飲料水が乏しいため雑用水としては、ため池やたんぼのごく近くに浅い井戸を掘って、その浸透水を

使用したりしていた。なおそのほかに、宅地内の大きな木にわらを結んで垂らし、その下のかめに天水を導入して雑用水として使用することもあったが、ひどい場合はたんぼの水や川の水、ため池の水をそのまま使用したこともある。

○水道ができるまでの各集落における雑用水は、次のような状態であった。

表3 各集落の雑用水の状態

字名	雑用水の状況
和泊	○主として石川の水を使用した ^{イシゴ} が、干潮時だけしか利用できず、特に台風の前には高波が押し寄せ数日間

和	<p>も使用できないことがあり不便であった。また石川と自宅との距離が遠すぎるため、水運びに苦労した家庭の多かった。</p> <p>○わりあいに浅い井戸が多かったのでそれを使用した^{イシゴ}が、中には塩分の多い井戸もあり、洗濯・水浴び・牛馬の飲み水などに困った。</p> <p>○奥川に近い家庭は、奥川の水や川の水を使用した^{ウコ}。</p> <p>○食物の洗いすぎ・煮炊き・食器洗い・洗濯などには、シヨージゴ・ヒージョ等の水を使用した。</p> <p>○唐芋、野菜類などの洗いすぎには、シヨージゴやため池の水を使用した。</p> <p>○宅地内の大樹にわらを結びつけて垂らし、下に置いてある大きなかめに天水を導入して、それを使用する^{イシゴ}もあった。</p>
手々知名	<p>○食物の洗いすぎ・煮炊き・食器洗い・洗濯などには、井戸の水を使用した。井戸の中には塩分の多い井戸もあり、洗濯・水浴びなどに困った。</p> <p>○唐芋洗い・野菜の洗いすぎ・洗濯などには、橋ゴラ（町田定美氏宅南の川）やミーゴラ（昭和橋の上流）などを利用する家庭も多かった。</p> <p>○宅地内の大樹にわらを結びつけて垂らし、下に置いてある大きなかめに天水を導入して、使用することもあった。</p>
上手々知名	<p>○フイチゴゴ・メイクブゴ・ナータイゴ・アガリソウなどの浅い井戸は、ため池や田んぼのごく近くに掘ってその浸透水を利用したものである。ところが、水が浸透するのはため池や田んぼの水の多い期間だけで、その水が減少すると井戸の水もすぐかれるので、これらが雑用水として利用できるのは、大雨後のほんの短期間にすぎなかった。</p> <p>○右に列記した雑用水の浅井戸の水がかれそうになったら、ため池の水際から少し離れた所の方二メートル</p>



19 天水を集めて使う天水がめ
(昭31年 永井氏撮影)

	喜美留	<p>ル・深さ一メートルほどの壕^{ほり}を掘り、ため池の水を浸透させてそれを使用した。</p> <p>○唐芋や野菜類を洗ったり、洗濯をしたりするには、ため池の水をそのまま使用した</p> <p>○主として暗川^{クラ川}・ウツコウ・アンニヤゴウなどの水を使用した。</p> <p>○唐芋や野菜を洗ったり、洗濯をしたりするには、田んぼの水やため池の水を使用することも多かった。</p> <p>○宅地内の大樹にわらを結びつけて垂らし、下に置いてある大きなかめに天水を導入して、それを雑用水として使用することもあった</p>
	出花	<p>○唐芋や野菜洗い、洗濯などは、田んぼの水やため池を利用することが多かった。</p> <p>○田んぼの水をそのまま使用したり、田んぼの水を広口かめに汲んで澄ませてから使用したが、ため池の水を汲み上げて田んぼに引き入れてある場合は、雑用水として田んぼの水を使用しないように集落で申しあわせてあった。</p>
	伊延	<p>○雑用水としても、主としてホーやチンチヨの水を使用した。水源が集落の東側に偏しているため、集落の西側の人たちは運搬距離が遠くて苦労した。</p> <p>○渇水期に雑用水に困って、畦布の東ため池の水際から一メートルほど離れた所に、方二メートル・深さ一メートルほどの壕^{ほり}を掘り、ため池の水を浸透させてそれを使用したこともある。</p>
	畦布	<p>○雑用水としてはワンジヨの下流の水を使用した。水は良質で水量も多かったが、四く五百メートルもある急坂を、重たい水おけを頭に載せ、野菜や洗濯物などを小わきに抱えて上るのは大変な苦労であった。</p> <p>○宅地内の大樹にわらを結びつけて垂らし、下に置いてある大きなかめに天水を導入して、それを雑用水として使用したこともある。</p> <p>○宅地内に壕^{ほり}を掘って天水をため、それを雑用水として使用したこともある。</p>
	国頭	<p>○暗川^{クラ川}やウシユウミ・タバなどの泉の水を雑用水として使用した。水は良質で水量も良かったが、断が</p>

	西原	<p>急坂を、重たい水おけを頭に載せ、野菜や洗濯物などを小わきに抱えて上るのは、危険を伴う重労働であった。またウシユウミ・タバなど海岸の泉は、集落から遠くて困った。</p> <p>○宅地内の大樹にわらを結びつけて垂らし、下に置いてある大きなかめに天水を導入して、それを雑用水として使用したこともある。</p> <p>○ため池で、唐芋や野菜類などを洗い、洗濯もした。</p>
	根折	<p>○主としてシャーゴやテーガナシゴウの水を使用した。</p> <p>○唐芋や野菜類を洗ったり、洗濯をしたりするには、田んぼやため池の水を使用することも多かった。</p> <p>○宅地内の大樹にわらを結びつけて垂らし、下に置いてある大きなかめに天水を導入して、それを雑用水として使用することもあった。</p>
	玉城	<p>○メーバルなど清水の流入する田んぼの片隅を少し深く掘り、そこにためた水を澄ませて使用したり、宅地内に壕^{ほり}を掘ってそれに天水をため、それを雑用水として使用した。</p> <p>○唐芋や野菜を洗ったり、洗濯をしたりするには、田んぼやため池を直接利用することが多かった。</p> <p>○宅地内の大樹にわらを結びつけて垂らし、下に置いてある大きなかめに天水を導入して、それを雑用水として使用したこともある。</p>
	大城	<p>○ウシユウミ・イムテゴウ・シミシゴウラ・ヤジヤゴウ・アダニゴウなどの水を使用した。</p> <p>○唐芋洗い・野菜洗い、洗濯等には、ため池の水を使用する場合も多かった。</p>
	皆川	<p>○ホーニゴウ・マーシンゴウ・アサト・タバラゴウ・ヒヤードゴウ・ハナゴウなどの水を使用した。水質も水量も良好で、あまり苦労しなかった。</p> <p>○主として、石橋川の分流の水をろ過した飲料水タンクの下流の水を、雑用水として使用した。</p> <p>○唐芋洗い、野菜洗い・洗濯等には、石橋川の分流の水を使用した。</p>

古里	<p>○宅地内の大樹にわらを結びつけて垂らし、下に置いてある大きなかめに天水を導入して、それを雑用水として使用することもあった。</p> <p>○石橋川の水を分けた用水路に沿っているホームシ・ナーチヂ・オイテンジヨ・ハシジヨなどの水を雑用水として使用していた。</p> <p>○各家庭では一番かめに飲料水、二番かめに雑用水を汲み入れて保管し、三番かめには田んぼの水を汲み入れて置き、手足を洗うのに使った。</p> <p>○ガジュマルの気根の先端を下に置いてある大きなかめ口に入れ、これで天水を導入して、雑用水として使った。</p>
内城	<p>○飲料水として使用しているアダニゴー・ヤジャゴー・イジスクゴー・ヒヤダゴー・イジンジヨウゴー・テラシキゴー・世の主ゴー・シマンゴーなど、皆水質が良いうえに水量も豊富であったので、その水をそのまま雑用水としても使用した。</p> <p>○そのほか、ヤシゴー・シヤンゴー・メーゴー等の水も雑用水として利用していた。</p>
上内城	<p>○飲料水の主体であるウイバルゴーは水量が豊富なので、そのまま雑用水としても使用した。</p> <p>○フウゴーの水も、雑用水として使用した。</p>
後蘭	<p>○飲料水として使用しているメーダゴー・メークブゴー・タンクシヤゴーなどは、水質が良いうえに水量も豊富だったのでそのまま雑用水にも利用し、少しも不自由はしなかった。</p>
谷山	<p>○飲料水として使用しているメーダゴー・メークブゴー・タンクシヤゴーなどは、水質が良いうえに水量も豊富だったので、そのまま雑用水にも使用し、少しも不自由はしなかった。</p>
仁志	<p>○谷山から仁志の田んぼに水を引く用水路の水を、雑用水として使用した。</p> <p>○田んぼの水をそのまま雑用水として使用した。</p>

永額	<p>○宅地内に塚<small>ほり</small>を掘り、それに天水をためて雑用水として使用した。</p> <p>○飲料水として利用しているアガリゴーやマタシヤゴーは、水質が良く水量の相当であったので、そのまま雑用水としても使用した。</p> <p>○ハバルゴーや暗川<small>クラギー</small>の水も、雑用水として使用した。</p>
瀬名	<p>○平常はアガリテゴー・クサヤマゴー（メーヤマゴー）・イヤテゴーなどの飲料水を、そのまま雑用水としても使用していた。</p> <p>○渇水期には、ナガリゴーの水も雑用水として使用した。</p> <p>○宅地内の大樹にわらを結びつけて垂らし、下に置いてある大きなかめに天水を導入し、それを雑用水として使用していた。</p>

三 夏の水浴び、冬の湯浴み

沖永良部の夏は、ことのほか暑いので、毎日一〜二回の水浴びが必要である。水量の豊富な泉を持っている集落では、水源は飲料水に使い、泉から流れ出る水を水浴び用に使い、その下流を牛馬の水浴場に使っていたが、大部分の集落では、ため池の水を利用し、人々が水浴びを

するすぐそばで、くそだらけの牛馬も、同時に水浴びさせたものである。

冬の季節、和泊字に近い集落の人たちは、年に数回銭湯に行ったが、当時は五右衛門ゴウエイモンぶろも、きわめて少なかったので、普通の鍋なべ・釜かまに湯を沸かし、それを杉板製の醬油しょうゆたるに入れて、湯浴みすることもあったが、醬油たるもなく、露天で、身体にぬるま湯をかけて浴びるのが普通であった

○水道ができるまで、各集落における、夏の水浴び、冬の湯浴みは、次のような状態であった。

表4 各集落の水浴び・湯浴み

字 名	昭和三十年当時		夏の水浴び	牛・馬	冬の温水浴	
	世帯数	人 口			銭湯の数	五右衛門 風呂の数
和泊	三七〇	一五二四	○石川 <small>イシゴウ</small> の川じりやシユウシンゴーで、海水浴をしてから、石川 <small>イシゴウ</small> やシユウシンゴーで浴びた。	○石川 <small>イシゴウ</small> の川じりで海で	二	二〇
和	一二六	六〇二	○ため池で浴びた。 ○シヨージゴーなどの川じりで浴びた。	○ため池で		四五
手々知名	一九七	八〇六	○ウチガマ・橋ゴラ・ミーゴーラーで、海水浴をしてからウチガマで。	○川 <small>ホーラ</small> で		一〇
上手々知名	六四	三〇一	○ため池で浴びた。	○ため池で		
喜美留	一六〇	八二四	○暗川 <small>クラゴウ</small> の川じりで浴びた。 ○ため池で浴びた。	○ため池で		一〇〇
出花	一〇七	五二八	○ため池で浴びた。	○ため池で		一〇
伊延	三四	一七七	○ホーヤチンチヨで浴びた。 ○海水浴をしてからホーヤチンチヨ	○海で		二四
畦布	一三三	六八八	○ため池で浴びた。	○ため池で		

国頭	三六五	二二二八	○ワンジヨの川じりで、男女別に。 ○ため池で浴びた。	○ワンジヨの川じりで		一五〇
西原	九一	四二四	○ため池で浴びた。 ○テーガナシ川の川じりで浴びた。	○ため池で		三〇
根折	九〇	四七二	○ため池で浴びた。	○ため池で		四〇
玉城	二二〇	九六四	○ため池で浴びた。 ○泉の川じりで浴びた。	○ため池で		三〇
大城	九二	四二五	○石橋川で浴びた。	○石橋川で		四五
皆川	七五	三〇四	○石橋川の分流に沿ったキツバラ・ユীগチなどの水の深い所で浴びた。	○石橋川の分流で		二〇
古里	八一	三八六	○ため池やホーマシで浴びた。 ○海で浴びた。	○ため池で		三
内城	一二七	五二七	○飲料水に使用する泉の下流の水たまりを造って人が浴び、その下流で牛馬に水浴をさせ、残りの水を田んぼに引いた。	○飲料水用の泉の最下流で		六〇
後蘭	五二	二五〇	○メーダゴーの川じりで浴びた。 ○ため池で浴びた。	○ため池や川じりで		三三
谷山	五三	二五三	○トタンゴーヤリンゴーで浴びた。	○トタンゴーで		一八
仁志	三三	一八五	○谷山から用水路やジーチヨで。 ○田んぼの水で浴びた。	○ハナガイ（谷山から用水路）で		

合 計	瀬 名	永 額
二 六 一 七	七 九	七 六
一 二 五 六 四	三 七 三	三 三 二
	○川 ^{カワウチ} 内 ^{カワウチ} ゴ ^{カワウチ} ー ^{カワウチ} や ^{カワウチ} メ ^{カワウチ} ー ^{カワウチ} ゴ ^{カワウチ} ー ^{カワウチ} の ^{カワウチ} 川 ^{カワウチ} じ ^{カワウチ} り ^{カワウチ} で ^{カワウチ} 浴 ^{カワウチ} び ^{カワウチ} た ^{カワウチ} 。 ○た ^{カワウチ} め ^{カワウチ} 池 ^{カワウチ} で ^{カワウチ} 浴 ^{カワウチ} び ^{カワウチ} た ^{カワウチ} 。	○ア ^{カワウチ} ガ ^{カワウチ} リ ^{カワウチ} ゴ ^{カワウチ} ー ^{カワウチ} や ^{カワウチ} ア ^{カワウチ} ナ ^{カワウチ} ダ ^{カワウチ} ゴ ^{カワウチ} ー ^{カワウチ} や ^{カワウチ} 暗 ^{カワウチ} 川 ^{カワウチ} で ^{カワウチ} 。 ○た ^{カワウチ} め ^{カワウチ} 池 ^{カワウチ} で ^{カワウチ} 。
	○た ^{カワウチ} め ^{カワウチ} 池 ^{カワウチ} で ^{カワウチ}	○た ^{カワウチ} め ^{カワウチ} 池 ^{カワウチ} で ^{カワウチ}
		八